

# 湘南学園だより



発行：湘南学園だより編集部

## contents



新しい世界への旅立ちに向けて

気品高く 困難を楽しむ

卒園するさくらさんとの思い出

三〇一六年度「豊かな学び」を目指して

小学校グローバル教育の充実に向けて

ブリティッシュヒルズセミナー

『藤沢の農業を盛り上げよう』～五年生の挑戦～

「湘南の知性輝く気品高い学園生を目指して」のこの一年から

NPO湘南食育ラボと提携!この三年間の中高食育実践

生徒の協働がつくる、中高合唱コンクール

学校法人からのご報告

理事長

学園長

年少組担任

小学校校長

小学校

小学校

小5学年主任

中学校長

中高食育推進委員会

中学校高等学校

河野重男

川井陽一

桑原みなみ

河本洋子

富田靖子

林田英一郎

中許竜宏

榎本勝己

有菌和子

清水直哉

02

03

04

06

07

08

08

09

10

11

12

## 新しい世界への旅立ちに向けて



理事長 河野重男

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、幼稚園の3年間、小学校の6年間、中学校高等学校の6年間を、鶴沼の恵まれた環境の中で過ごし、それぞれ次のスタートラインへ立っています。

これからの皆さんの人生が、希望に満ちた素晴らしいものとなりますように、願っております。

### 対話と相互理解

昨今の世界情勢を、VUCA（ブーカ）ワールドと表現する事があります。これは、不安定で変化が激しく（Volatility）先が読めず不確実性が高い（Uncertainty）複雑で（Complexity）曖昧模糊とした（Ambiguity）状況を表した言葉です。

この様な事前に想定できなかったことが次々と起こる世界で

なんらかの物事を成し遂げるためには、デイスカッションによる選択的意志決定ではなく、ダイアログ（対話）による相互理解（お互いを尊重しながらの意志の共有）が必要であり、そのための条件のひとつとして

「自らの体験を語る」事が重要と言われていきます。皆さんが湘南学園で得た様々な経験や思い出とこれから学ぶことの全ては、とても貴重な財産となると思います。

### 自ら学ぶ力

江戸時代の寺子屋教科書である「金言童子教（きんげんどうじきょう）」には、「子に教えざるは父の過ち、学の成らざるは子の罪（子に教育を与えなければ、その子は愚かなままだ。これはまさしく父の罪である。父が教えたにもかかわらず、その子が無精で学問が成就しないのは子の罪である。）」との一

句があり、学問する態度自体の伝承が大切であると説いています。

原文で「父」となっている部分については、今日では「保護者や地域社会」と読み替えた方が良いと考えています。

皆さんは在学中に、保護者の皆様や教職員の方々に、素晴らしい教育環境を与えられて来ました。これからは、今まで以上に「自ら学ぶ力」を発揮する時期であり、それは社会人になっても変わらないとても重要なスキルです。

卒業生の保護者の皆様、在学中のご協力、まことにありがとうございます。

湘南学園は、1933年の創立以来、伝統を堅持しつつ、時流に沿った改革を実行してまいりました。これからも「子供たちの成長と未来のために」ためまぬ発展を目指すとともに、卒業生のみならず保護者の方々にとつても、時折立ち寄り見てみる、そんな学園を目指してまいります。

## 「気品高く 困難を楽しむ」

— 新たなステージに向けた湘南学園の挑戦 —



学園長 川井陽一

### ご卒業おめでとう

卒業を迎えられた園児、児童、生徒のみならず、誠におめでとうございます。みなさんの新たなステージでの一層の飛躍を心より願っています。

保護者の皆様にはお子様のご卒業を心よりお慶び申し上げますと共に、この間、賜りました学園の教育活動へのご理解とお力添えに、心より感謝申し上げます。

そして、湘南学園もまた新たなステージを目指したいと思えます。八十三年の歴史と伝統を踏まえ、次なる歩を踏み出します。

**建学の精神と「気品高く」  
学園の教育の根本としての建学の精神**

湘南学園の教育の根本は建学の精神にある。澤柳政太郎、福沢諭吉につながる学園の建学の精神

は、誠に誇り得る内容のものであることを常に自覚したい。

「個性豊かにして身体健全 気品高く 社会の進歩に貢献できる明朗有為な実力のある人間の育成」。学園の教育の出発点であり、目指すゴールでもある。学園生は、少なくとも中高生は建学の精神を諳んじるべし。もとより教職員は範となるべし。

### 「気品高く」について

建学の精神の中で、他校においてあまり目にせず、なおかつ学園の特色と感じているのが「気品高く」という言葉である。私は、「気品高く」を以下のように解釈している。

①「高い倫理観」…グローバル時代において最も重視すべきものである。

②「好感をもつて受け取られる立ち居振る舞い」… 服装・身なりや言葉遣いも含まれ



る。外観は疎かにできない。「文質彬彬」の通り、外観は内面の反映でもある。

③「教養」：気品と教養は対でありたい。教養の裏打ちがあつての気品であろう。

④「豊かな感性、共感的姿勢や他者への思いやり」：二十一世紀のキーワードである「多様性と共生」に通じ、人権の尊重にもつながる大切な観点である。

建学の精神全体を大切にすべきことは言うまでもないことである。それを前提としながらも、「気品高く」を学園の教育の根底に据えたい。

### グローバル教育

グローバル教育という言葉は使いつ手により定義が異なり、意味内容があまりにも広がりすぎている感がある。私は、グローバル教育において重視すべき点として以下の三点をあげたい。

#### 「世界標準」

わが国だけで通用する物差しではなく、「世界で通用する物差し（世界標準）」で教育活動を考えたい。

学園卒業生で二〇二五年から一六年にかけてスウェーデンに年間留学した渡部ゆうさんのスウェーデンからのレポートにある「高校生同士の普通の会話で移民政

策や中国の一人つ子政策やアメリカの政権の話題が出るという日常生活、及びその背景にある主体的で積極的な学習活動」などは世界標準の一例であろう。渡部さんのみならず海外留学あるいは海外セミナーをおして、さらには留学生の受け入れにより、あるいは国内のインターナショナルスクールとの交流等も含め、子どもたちが世界標準を感じる場は多々あると思われる。

あるいはスポーツにおける「Good User」（よき敗者）という考え方も世界標準のひとつであろう。

また、世界標準には、「英語力」もある。英語力を含めた発信力を高めることも、次代を担う人間にとつての課題である。この点に関しては、幼小中高からなる学園の特色を生かした英語教育に力を入れ、「英語力」養成に積極的に取り組みたい。ただし、あくまで英語力の前提に「国語力」があることを忘れてはならない。「国語力」を高めることは、英語力の涵養においても重要である。ここは強調したい点である。併せて、思考力や表現力を支えるのは日本語（「国語力」）であり、英語は目的ではなく手段であることも留意したい点である。

世界標準を考えるもうひとつ

の目安に国際バカロレア（IB）の理念と教育内容もあげられるが、国際バカロレアについてはリベラルアーツとの関連でふれたい。

#### 「リベラルアーツ」

教養教育という訳語が一般的ではあるが、私は、リベラルアーツを「文系、理系を越えた学び」かつ「幅広く深い学び」ととらえた

い。リベラルアーツは、幼小中高を通じて展開されるべきものであり、リベラルアーツにおける数学と哲学の意義にも注意を払いたい。

また、国際バカロレア（IB）の目指す理念、教育内容は、リベラルアーツの考え方と共通する。学園の新たなステージに向けて、IBの理念及び教育内容に教職員が理解を深め、参考にするには大いに意味があると考えている。

#### 「多様性と共生」

多様性と共生の意義については、上記「建学の精神」で述べたとおりである。なお、この点は、学園で推進しているESDにも大いに関連している。

#### 米国大学入試から学ぶこと

昨年八月におけるハーバード大、MIT、スタンフォード大を始めとする米国著名大学の視察とおし、米国の大学入試について理解を深めるとともに多くを学んできた。

#### エッセイの重要性

米国の大学入試はいわゆるAO入試である。共通試験（SAT等）の成績や高校の成績、さらに高校の推薦書等の選考資料の中で、最も重視される合否の鍵を握るのがエッセイであるということが強く印象に残った。

エッセイは受験生の志望動機書であり志望理由書である。受験生のそれまでの成功や失敗を含む様々なことへの挑戦及びその成果、冷静な自己分析、深い思索、自らの将来への展望と情熱が集約されたものが米国の大学入試におけるエッセイである。

「自分は何者か」、「何をやりたいか」、「だからこの大学で（この先生の下で）学びたい」、「そのために自分はこのようなことをやってきた」、「だから、あなたは私を採るべきである」等をまとめるのがエッセイと聞いた。すなわち、自分の言葉で、自分の体験を踏まえて、情熱をもつて、自らの将来を構築し、その将来構想を語ることで、できる人間の育成をこれからの学園は目指したい。そして、それは、幼小中高からなる学園としてぜひ追求したい方向性である。

#### 「困難を楽しむ」

「困難を楽しむ」、学園小学校の「卒業アルバム」に贈った言葉である。

スポーツや芸術分野であれ、習い事であれ、もとより学習においても、力量が高まれば高まるほど、より難しいことにやりがいを感じるはずである。それは、「困難を楽しむ」と表現できるのではないだろうか。

建学の精神に感謝と誇りをもち、幼小中高からなる男女共学の総合学園として連携・接続を強化しながら、鶴沼の地に培った歴史と伝統を踏まえ、「困難を楽しむ」学園を目指したい。その中で、「見える学力、見えない学力」双方が育まれ、「見える力」を支える「見えない力」に目が向く子どもたちが増えると考えている。そのような学園生活においては、一人ひとりが自らを磨き、互いに切磋琢磨する雰囲気さらに高まるであろう。それは、とりもなおさず建学の精神の具現となるはずである。

「困難を楽しむ」のは、子どもたちのみならず教職員においても同様である。深い学び、豊かな学びに向けた授業の工夫とともに、公開、検証、評価に積極的に向き合う姿勢が必須である。教職員自らが、変わることを恐れず困難を楽しみたい。

「気品高く 困難を楽しむ」。新たなステージに向けた湘南学園の挑戦のキーワードとしたい。

# サクラさん

## 卒園おめでとうございます。

年少組担任 桑原みなみ

\*年少児に優しく接してくれる年長児の姿

昨年の七月に、年長児が保育室でお店屋さんごっこをしていました。「サクラさん（年長児）のお部屋にお店さんがオープンしたんですって。先生お買い物に行つてごようかしら。」と誘いかけると、それを聞いていた年少児も「行きたい！」と一緒に年長児の保育室へ足を運びました。中へ入ると「いらっしやいませ。何にしますか？」と、店員になりきった年長児が迎えてくれます。画用紙を丸めて作ったのり巻きや、茶色の毛糸を焼きそばに見立てて作ったお弁当の数々。白いティッシュに赤や紫のマジックで色を付けて作ったアイスクリームなど、テーブルの上に並べられた美味しそうな食べ物を見て、吸い込まれるように子ども達とお店屋さんへ入っていきました。



どれにしようか考えている年少児に「もも組さん（年少児）、お金もつてきた？」なかつたら、こっちで作れるよー」「作ってみる？」などと、優しく問いかけている年長児。また、アイスを欲しそうにしている年少児の姿を見て、「何の味が好き？」「なんでもあるよ。」と丁寧にその子の気持ちを尋ねていました。

\*二年前を振り返って

三月十六日に卒園する年長組は私が湘南学園幼稚園へ勤めて初めて受け持った学年の子ども達です。年少児に優しく接してくれた年長児も、二年前は年少児として幼稚園生活を送っていました。

入園当初はおうちの方と離れて過ごす生活に不安や緊張を抱えながら登園していました。子ども達が少しでも早く幼稚園に安心して来られるよう、一人ひとりの気持ちに寄り添い、思いを受け止めたり、スキンシップを取っていたころを思い出します。保護者の方と離れる際にお母さんに抱きついて泣き始める子や、つないだ手をかたくなに離さない子、笑顔で保護者と別れた後に「ママがいない。」と泣き始める子など、様々な姿がありました。この様な子ども達の、ありのままの思いを受け止めていく中で、次第に保育者との心の距離も縮まり、安心して登園してくるようになりました。

ドッジボールのコーンを自分達で書き、ゲームを始める姿が見られます。また、人と話をする際に、相手の顔を見て会話をしたり、前に先生が立つと自然と話を聞く姿勢となったり、自分の考えを話したり、友達の話にも耳を傾けようと意識が大きくなっている様子が伺えます。この様な年長児の姿に大きな成長を感じます。



年長組になってからの姿

・お泊り保育

「サクラわくわくデー」

夏休みに入る前に行われた「サクラわくわくデー」では、当日に至るまで、自分たちのやりたいことを話し合ったり、必要な材料を自分達で買い物へ行

ったりと60人でわくわくデーの二日間をより充実したものにしようという気持ちを向ける姿にもしさを感じました。

・運動会

「さんさんコンパニオン」

この日、年長児は舞台の上でマイクを手に当日の進行を担当したり、他学年の種目で必要な道具の準備や片付け、ゲーム中の手伝い、未就園児へのプレゼント渡し等、自分で決めた役割（係り）を自信を持って行っていました。60人で掛け声を出しながら気持ちを合わせてパラバルーンを行う姿、リレーでは真剣な表情で走る姿、がんばって走る友達を応援する姿、勝敗に涙する姿など、どの姿を見ても、子ども達の成長を感じずにはいられませんでした。





・造形展  
「がちゃべたらんど」

チャボのクレヨン画、自分の顔の特徴を捉えた版画、秋の遠足で、年長組の仲間と一緒に作った動物園で見た動物を作った紙粘土など細やかな作品の数々、自分たちで考えを出し合いながら学年全体で作り上げていった商店街の共同制作など、どの作品からも子ども達の成長が伺えます。

幼稚園のホールにつくられた商店街では、アクセサリー屋さん、お花屋さん、おせんべい屋さん、パン屋さん、八百屋さん、有田商店さん、アイスクリーム屋さん、かばん屋さん、魚屋さん、お弁当屋さん、カレー屋さんと、一学期のお店屋さんよりもさらに本物に近づいている商品に、年少組の子ども達はおもしろいこと、私までわくわくした気持ちになりました。「じらしやいませー!」と店員になりきった年長児から声がかかる、年少児はそれぞれ気に入った店に入ります。



「これにしますか?」「こちらがお勧めです。」「と年少児に品物を見せている年長児。「これください。」「と年少児が言う。」「ありがとうございます。」「おまけでこちらもどうぞ。」「と、サービスをする姿も見られます。

おせんべい屋さんでは、おせんべいを焼く「手焼きコーナー」に興味を持った年少児に、「こちらでおせんべいを焼けますよ。」「と声を掛け、側でせんべいの焼き方を教えてくれる人もいました。また、たくさんあるお店の中でどこで買おうか迷っている年少児に、「何が欲しいの?」「屈んで優しく声をかけ、一軒一軒手を引きながら「これはごっつ?」「アイスクリ

・表現発表会

「わんぱく子ども会」

「ムもあるよ。」などと、年少児が一つでも買いたがるよう声をかけている年長児の姿も見られました。  
このような年長児の姿に憧れの気持ちを抱く年少児もいたことでしょう。

二月に行われたさくら子ども会では、年長児がそれぞれやりたい役を自分で選んで「浦島太郎」の劇に取り組みました。物語のイメージを60人で共有し、台詞やダンス、衣装など仲間と相談を重ねながら考えていったものでした。当日は、台詞のタイミングを合わせようと声を掛け合ったり、舞台の上で堂々と台詞を話すその姿など、どの姿もとても立派なものでした。

和太鼓の演奏では、劇とは変わって一人ひとりの真剣な表情や、太鼓を叩く姿勢、演奏中の掛け声など、どの部分をとっても「さすが年長さん!」としか言いようが無いほどに圧巻でした。また年長児の奏でる和太鼓の響きは、時間を忘れて聴き入ってしまうほど素晴らしいものでした。



\*三年間の成長

年少の四月には、保育室に入るのもやっとだった子ども達が、今では自分の目的をしっかりと持って登園してくる姿や、朝の挨拶を気持ちよく交し合う姿など、日常の些細な場面でも子ども達の成長が見られ嬉しい気持ちになります。

また、「困ったことがあったら何でも聞いてね。」「と他学年の子ども達に優しく接してくれたり、自分たちが幼稚園のリーダー(最高学年)であることへの自覚を持った子ども達の言葉ひとつひとつに、成長を感じます。

これから幼稚園を卒園して小学校へそれぞれ羽ばたいていく子ども達。湘南学園の幼稚園で培った力を活かして、充実した小学校生活を送ってほしいと願っています。



## 二〇一六年度

「豊かな学び」を目指して  
「書く」「書く」を通して、ともに育つ修学旅行記  
100ページ

## 小学校校長 河本洋子

世界レベルから日本を見た時、

二〇二〇年からの大学入試制度の変化、PISA調査や教育課程実施状況の結果から「テキストを利用し自分の考えを書いたり、論理的に意見を述べたりする力が低下している」との指摘があります。

そこで、「小学校時代に身につける力」について、本校の教育理念の二つ「豊かな学び」そのものを具現化し、教育部を中心に教員で共有し、日常の教育活動の中で実践を目指しています。



## 【1】公開研究会八年目

## 「学び合い」→「書く」

## ことをテーマに研究

本校では、二〇〇九年度の教育部設立以来、昨年度までの七年間は、研究主題「学び合い」をテーマに研究を重ねてきました。

昨年度の「学び合い」のまともの会」で、共同研究者の佐藤隆教授（都留文科大学）から、

◆書くことで 自分の世界の見方を広げられるようになる。
◆書くプロセスを経て、 自分を認識し、問いをもつようになる。
◆書くという行為を導きだすような実践の開発を 考えていくべきである。

とのご助言を頂き、今年度から新たに「書く」ことをテーマに研究を進めています。

色々なことが頭の中にある間は、混沌とした状態です。メモや短冊に書き留めることで、「考えががちに」なりつつあります。

## 【2】ともに育つために！

## 毎日書く「校長日記」

書くことがあまり好きでない私ですが、この一年（二〇一六年度）「ともに育つ」ために、校長日記を書き綴りました。自分への挑戦でもあり、宿題でもありません。書き続けることは、さらに自分に問うことであり、自分と深く向き合うことでした。『今が旬！』である話題に絞り込み、五感をしっかりと働かせ、その副産物として、一日を精一杯生きていく自分に気づきました。

一学期は、なかなか書けずに、苦しく悩んだ「静」の時間で、「動き出し軌道に乗ったのは、二学期のたいてい表現まじりの練習が始まってからでした。

## 私の心の変容

その頃から、表現の踊りやリリース、応援団の練習で日々頑張る子ども一人ひとりに「おはようございます」以外の言葉を掛けたい、子どもたちを「今」励ましたい。ここが踏ん張り処という気持ちが強くなりました。

今、思うことを心に模造紙にoutputしてみました。見える化「これだ！」私なりの言葉が見つかり始め、重かった気持ちが楽になつてきました。

## 【3】心を込めて

## 毛筆で模造紙に書く

習字は小学生の時以来でしたが、チャレンジしてみました。想いが強まった時は、早朝七時から「書く時間」と決め、心を込めて丁寧に書きます。今、伝えたいことを絞り込み、短いメッセージに想いを馳せ、瞬時に伝えることの繰り返しです。

先を見て今日の過ごし方を考える「スケジュール帳」のようだと感じたこともありました。

## 子どもたちの変容

私からのメッセージを「見て一言、声に出して一言、立ち止まって読んで一言」かけてくれる子が増えて、掲示物がないと「何もないの寂しいね」と言ってくれます。朝の挨拶も心が通いはじめ、一方通行でなくなったように感じます。

行事までの日めくりが発案されたり、折り紙作品（鶴やハートなど）や日記のコピー、お手紙、ポスターも届きました。

行事や目標に向かって、同じ方向を向いていることが確認できると、子どもたちは安心して底力を出せるようです。子どもたちとの距離が近くなり、子どもの素直さに磨きがかかり、朝から「笑顔」になれる瞬間です。

## 【4】お手紙を書く

夏休み、冬休みにも子どもたちにお手紙を書きました。十一月には、二年生の「ゆうびんやさん」企画で、沢山のお手紙が校長室に届き、嬉しかったです。

◆病気で学校を続けて休んでとても不安だった時、毎日の校長日記を読んでもらいました。学校の様子もわかり、安心できました。

◆毎日出ている間は「好調日記」ですね。

◆海外転勤になり寂しいけど、学校から帰って日本語のHPを楽しみに毎日見えています。毎日書いてくれて有難う。

【5】あいさつ+αで伝える  
書くことで思考を  
深化させる

毎日続けることで、自分と深く向き合い、思考が深化していく感覚を覚えました。そして継続していくことで、二年間の軌跡が見えてきました。

## 大事なことは

書く力を育てることに留めず、「書きたいことを子どもが内面から生み出せるような学校づくりや授業づくり」であると思いうようになります。



# 小学校グローバル教育の充実に向けて

小学校 富田靖子



## 英語教育改革の方向性

東京オリンピック・パラリンピックの開催される二〇二〇年は、小学校教育において英語教育改革完全実施の年として注目されています。三年生からの外国語活動、五年生からの英語教科化が始まります。続く中学校からは英語で英語を教える授業、高校では英語でディベート、そして大学入試改革。国際社会で活躍できる日本人を育てようと、国を挙げて英語教育の改革が推し進められています。

## 湘南学園小学校の英語教育

湘南学園小学校ではどのような英語教育が進められてきたのでしょうか。英語の授業は少なくとも四十年以上前から導入されています。五年生が週一時間、六年生が週二時間、日本人の先生と英語を学んでいました。当時小学校から英語を学び始めた卒業生の中には、現在英語を使って活躍されている方が何人もいらっしゃいます。

英語教育の内容は、時代の変化に応じて見直しを重ねてきました。

文字と音の規則性を学ぶフォニックスを早くから導入し、ネイティブ教員の採用を一九九三年から始め、英語学習の開始を四年生に引き上げてきました。

グローバル化の広がりに応じて、湘南学園の英語教育もさらなる発展をめざして動き出しています。

二〇一三・一四年度には、四、六年希望者を対象にした韓国英語村セミナーを行いました。

二〇一四年度には、英語の授業を一年生から始めることにしました。低学年生も歌ったりゲームをしたりして楽しみながら英語に親しんでいます。

二〇一五年度には、葉山インターナショナルスクールと提携して、全学年希望者を対象にしたサマースクールを開始しました。夏休みの一週間、豊かな自然に囲まれた葉山で、ネイティブスピーカーの先生や子どもたちと、様々なアクティビティを体験しています。

## 二〇一六年度の取り組み

二〇一六年度は、小学校グローバル教育の方針を定め、発展

させる一年となりました。

湘南学園小学校では、よりよい未来を実現しようとする意欲を持ち、責任ある社会的行動や地域社会への参加ができる、民主的社会の一員としての地球市民の育成をめざすために、グローバル教育に取り組んでいます。そのために異文化理解や異文化コミュニケーションを図ることや、国際共通語としての英語の習得にも力を入れていきます。

## (1) 英語の授業充実と課題

英語の授業では、「英語で英語を教える」「意味(目的)のあるコミュニケーション活動をする」「学んだ表現を生かす」ことが大切だと言われています。

今年度はジニー・ベンソン先生と担任とのティームティーチングで全学級の指導を進め、よりよい授業づくりに向けて、春には「ティームティーチング」、夏には「クラスルームイングリッシュ」をテーマに教員研修を行いました。今後は高学年の授業時数拡充のための教育課程の検討が課題となります。

さらに、昨年九月に発足した「小中高『英語教育』連携・接

続教育会議」を定期的に開催し、小中のカリキュラム接続の検討も進めていきたいと考えます。

## (2) 英語にふれる機会の拡充

授業以外にも、子どもたちが英語にふれる機会を増やせないものかと模索しています。英語がわかった、通じたという喜びは、子どもたちの学習意欲を引き出してくれるからです。

①六月から毎週火曜日のお弁当の時間に、英語科室で「イングリッシュランチャレレンジ」を始めました。これはジニー先生と一緒にお弁当を食べながら、英語を聞いたり使ってみる時間です。毎回参加者が多すぎるのが悩みでしたが、十一月からは、英語ボランティアの皆さまにもご協力いただき、活気ある時間となっています。

②十二月には、五・六年生希望者を対象としたブリティッシュヒルズ・イングリッシュセミナーを実施しました。(詳細は次頁) 出発前には後援会・英語ボランティアの皆さまにご協力いただき、入国審査や両替などの模擬体験をするプレセミナーで準備したため、子どもたちは現地でも積極的に英語を使い学ぶことができました。

③春休みには、一、三年生希望者を対象とした校内で行うスプリングスクールの開催を予定しています。

④二〇一七年度の夏休みには、高学年生希望者を対象とした、富士山麓でのイングリッシュキャンプの実施を計画中です。

⑤湘南学園関係者の「海外一時帰国体験入学」受け入れや、海外からの転入学の受け入れについても、子どもたちが外国語や異文化にふれるよい機会として、継続して取り組んでいます。

## (3) エコスクール活動の継続

身の回りの課題を自分たちで解決することで、持続可能な社会の担い手の育成をめざすエコスクール活動も、グローバル教育の一環です。湘南学園小学校では、今年度もエコスクール委員会が中心となり、児童会全体で取り組みを進めています。

地球市民の育成をめざすグローバル教育の取り組みを通して、改めて湘南学園の後援会・同窓会・PTAをはじめとしたリソースの豊かさを実感しています。今後とも皆さまのご支援をよろしく願います。

# ブリティッシュヒルズセミナー

小学校 林田英一郎



小学校では、今年度より高学年の希望参加でブリティッシュヒルズセミナーをスタートさせました。

ブリティッシュヒルズは、福島県の中通り、羽鳥湖高原の森の中に位置します。「パスポートに、英国文化を体感しながら英語を学ぶ施設です。施設内は建築様式からインテリアに至るまで時代考証に基づいて中世英国のスタイルに調えてあり、建築資材を英国から取り寄せている程の徹底ぶりです。

今年度は、五・六年生十八人が十二月二十一日から二泊三日でセミナーに参加しました。

セミナーでは、それぞれに出自の異なるネイティブの先生方の六つのレッスンに参加しました。中には、ダンスやジェル・キャンドルづくり、スコーンづくりなどもあり、そのどれもがオール・イングリッシュで進んでいきます。ネイティブの先生方との初対面の緊張も、アイスブレイクですぐに打ち解け、レッスンは進んでいきました。オール・イングリッシュはレ



ッスンだけではありません。食事（ビュッフェ方式）の説明も全て英語です。そして、二日目の夕食では、事前にテーブルマナー講座を実施した上での本格的なディナーも体験しました。食事の度にホールで顔を合わせるの他私学の中高生の一行、という中で学園小の五・六年生は、ちよっぴり背伸びをした楽しい英国体験の二泊三日を過ごしてきました。

出発前には、英語ボランティアの方々の協力を得て、事前のレッスンを実施しながら、準備万端で当日を迎えることもできました。

次年度も同じ時期に、このブリティッシュヒルズセミナーを実施する予定です。高学年の皆さんの積極的な参加を希望します。

## 『藤沢の農業を盛り上げよう』

～五年生の挑戦～

五年学年主任 中許竜宏



五年生は社会科『日本の食料生産』を発展させた総合的な学習を行っている。有機栽培の米作りで毎年お世話になっている相原氏から『日本の農業を盛り上げて欲しい』と田植えの時に話された言葉をきっかけに地産地消プロジェクトが始まる。

### 【学習のきっかけ】

地産地消について教室でアンケートを取った。三浦大根、湘南レッドなど名前は知っていて食べたことがない野菜。鶏沼カボチャ、相模半白節成など聞いたことすらない野菜もあった。その結果から地産地消ができていないのではないか。もしかしたら、積極的に食べるこ

つけないのに、後味がすごく甘い。」「シャキシャキ」との感想。藤沢産の新鮮さを知った。また、中越氏の話の中に出てきた「身土不二」の精神。「同じ空気に触れ、太陽に照らされ、雨に打たれた、そんな同じ環境のもとで育った野菜を食べることで体を強くしよう。それが地産地消の意味。自分達でも作ることはできるよ。」その一言から、子ども達の挑戦が始まった。

### 【藤沢市長に手紙!!】

今回のプロジェクトは「自分達で藤沢野菜を栽培し、商品化して販売すること」を通し、地産地消の大切さを多くの方々に広めること。地産地消を推奨しながら、地域を盛り上げていくのである。ただ、問題は栽培農地がないのである。そこで、子ども達は中越氏から聞いていた「藤沢には農地が余っている」という言葉と、相原氏から聞いて見ていた「跡継ぎが農業をやらず、相続したが荒れ果てている田んぼ」をリンクさせて、二つの結論にたどり着いた。「学校の近くに農地が余っているかもしれない。」彼らは、藤沢市長に手紙を

書き、農地を貸してもらう計画を立てた。藤沢市役所農業生産課にも支援をしてもらい、鶴沼地区の農業委員さんに相談。結果、藤沢市長から手紙が来て、蓮池近くの農地を無償で貸してもらえることとなった。子ども達は大喜び。そこから様々な試行錯誤が始まった。



植えたのは湘白（品種改良された湘南新種の大根）、カブ、ニンジン。「水やりはどうするか。雑草は？寒いからトンネル掛けしなきゃ。間引きが必要。その間引きしたものは食べられるらしいよ。雨が降らない、どうしよう。葉っぱを食べているのは鳥だ、先生！」間引きしたものはフレッシュサラダにしたり、ちりめん炒めたり。むしゃむしゃと本当においしそうに食べた。自分達で看板も作った。そんな子ども達の愛情こもった藤沢産野菜は、三月上旬には、即売所で藤沢産野菜として並ぶ予定である。

野菜達のようにすくすくと伸びる子ども達。まぶしい太陽をたくさん浴び、しっかりと地面に根を張り、未来へ伸びていく姿は、本当に、たくましい。





# 「湘南の知性輝く気品高い学園生を目指して」

## のこの一年から



中高校長 榎本勝己

この春に湘南学園中学校高等学校を卒業される生徒の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんに心からの祝福と励ましを言葉を送ります。皆さんが進まれる進路において、一層活躍されることを心から期待しています。卒業生の保護者の皆様にも、お子さまのご卒業をお祝い申し上げます。

り、旺盛な教員研修の保障にもつながったといえます。今後その成果が待たれるところです。

案・出食・アンケート等の取組みは、地域から全国的課題に迫る取組みとなりました。

### ④ 連携・接続・一貫性をもった湘南学園教育を目指して

今年度初の湘南学園連携・接続教育会議を立上げ、二〇二〇年度から初等教育課程高学年において導入予定の教科「英語」のあり方と前期中等教育における求められる英語教育の接続を視野に、小中連携・接続「英語」教育会議を開催者の出席のもとに実施しました。「英語」教育会議の継続と共に、中期的湘南学園教育構想づくりに結びつく幼稚園、小学校、中学校、高等学校の連携・接続・一貫性を十全に生かした湘南学園の未来を共に大きく示していくことの大事さを強く感じています。

共に、本学園中高への期待をもっていたり、法人をはじめ全学園をあげて取り組んできました。「チーム湘南学園」関係各位のご協力もあり、湘南学園中高の歴史を繋いでいくに相応しい新入生を迎え入れることが見通せることとなりました。ここに御礼申し上げます。

今後安心・安全の防災拠点としての立場をしっかりと自覚し、地域の一員として求められる自分の役割を果たしていきます。最後に、PTA、同窓会、後援会など「チーム湘南学園」の皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。中高教職員一同、湘南学園教育の前進を図っていきます。

中高のこの一年を振り返り、その主な取組みの特徴についてご報告します。

① 一年単位の変形労働時間制と中高週一日研修日の導入で質の高い特色ある教育を支えるベースに

今年度からスタートしたこの制度は、学園全体としての一年単位の変形労働時間制と中高においては週一日研修日の導入となりまし。湘南学園教育を中高教育においてより豊かに発展させるための教育環境整備とな

② 「湘南学園ESD」の構築を目指した特色ある取組みの前進

グローバルネットワークを活かし、地球規模の諸問題に生徒が対応できるよう、持続可能な未来の担い手を育成する「湘南学園ESD」プログラムの完成に向けた取組みを進めています。その事例として二つ紹介します。一つは「ポーランド・リトアニアヒストリーツアー」の継続とそこでの学びを「言語化」する早大教員とのコラボ企画の実施。さらに連続講演会に結びつけた地域への発信です。

③ 「中高グローバル教育2016」の新たな広がり

⑤ 二〇一七年度中学校入試と迎える新入生への期待

二つは鹿児島県鹿屋市が抱える課題解決のために首都圏の高校生にその解決方法を公募する「かのや100チャレ」に応募し、奨励賞を獲得。その後「湘南食育ラボ」とコラボした鹿屋特産品利用のランチを企画立

湘南学園全体のグローバル教育指針を基に、今年度新たな取組みをご紹介します。一つは「米国トップランキンング大学視察」に、新たに着任された川井学園長と共に、中山山田国語科教諭に参加いただき、全学にその学びを共有化できたこと、二つは英語教員研修の一環として教員向け「エンパワーメントプログラム」に二名の参加を得たこと（以上「教育振興基金」支援プログラム）、三つは中学一年生対象に「イングリッシュ・キャンプ」を初実施し予想以上の参加者と高い満足度を得たこと、四つはグローバルセミナーとして引き続き「台湾研修」を実施し、アジアを視野に入れた国際交流の広がりが見込まれた

この間、本学中学入試ミスに係りご心配とご迷惑をおかけしたことを改めてお詫びいたします。今回の中学入試に際しては、ミスを防ぐための出来る限りの対応を行い、信頼回復と



## NPO 湘南食育ラボと提携!! この三年間の中高食育実践

中高食育推進委員会 有蘭和子

私たち食育推進委員会は、子どもたちが、健全な食生活を実践できる人間として成長できるよう、NPO 湘南食育ラボのみなさんとの協力連携を図りながら、活動を広げてきました。中高生向けのカフェテリアランチでは、丁寧にとられたいいりこ出汁のお味噌汁。そしていつも炊きたてのご飯が生徒諸君の頑張りを応援。高3生向け・午後3時からのアフタヌーンティーも、彼らをファーストフードやコンビニから確実に遠ざける役割を果たしていることとしてしよう。

### 家庭科 教養の授業が食育の軸に

さて、中学2年次では多彩な調理実習にとりこんでいます。例えば、魚のいろいろな裁き方をラボスタッフの実演で実践的に学びます。そして、その場で秋刀魚のおいしさと、土鍋炊きご飯のおいしさを堪能します。



秋刀魚のさばき方を学ぶ  
中学2年生

### 総合学習で学ぶ 地産地消と生産者の思い

総合学習では、主に中2生が「湘南地域の今」に触れます。生徒たちは「農家の方々の苦労とやりがい」に出会い、「地産地消」の意義をじかに学びます。NPO ラボには生産

3年次には郷土料理の研究にとりくみます。2014年、ユネスコの無形文化遺産にも登録された和食文化を、「郷土料理」という視点から深めてみようという実践。南北に長い日本では、全国各地に新鮮な旬の食材を使った料理が存在している。このことを、みんなで掘り起こし、実際に味わってみようという取り組みです。具たくさんの汁物や、良質なタンパク質を含む魚の美味しさ、そして小豆の美味しさが引き立つひらひら団子も、いまやカフェの人気メニューです。

また、高3「教養」の茶道実習では、ビタミンCたっぷりのお抹茶の効用とともに、お作法を学びます。今年度はその際に用いる和菓子に、ラボ特製水ようかんが登場。普段、お茶はおろか、ようかんなどほとんど食する機会がない生徒諸君も、手づくりの水ようかんを、こっくりとした小豆の美味しさを味わいました。

者との仲介役を頼み、生徒は農家を訪ね作業します。今やブランドとなった「湘南鎌倉やさい」、そして「みやじ豚」や「鶴沼の魚醬」など。そうした「本物の味」を支える生産者のプライドにふれた生徒たち。活動後は、カフェテリアでその味を堪能します。



このほか、中3研修旅行や高校総合における「生物多様性」の学習も、自分たちの食を支えているのは豊かな自然とその生態系であるということと学ぶ機会となります。

とりわけ、中3旅行で行う山口県周防大島での民泊は、生徒諸君が「自分で収穫した野菜やくだもの瑞々しいおいしさ」や、「自分たちで釣って、さばいて、料理した魚の旨さ」に出会い、海の恵み、山の恵みを本格体験する貴重な機会でも生きていける。きのう近所の人に釣ってきた魚をあげたら、きょうは家の玄関に大きな大根がきていた! (中3男子) : このようにいつでも新鮮な食べ物が手に入る環境と、繋がりがあって暮らす人々の関係

にも気づくことができました。

### 学園祭でも多彩なチャレンジが

中高生徒会主催の「学園祭」では、ここ数年、フードコートばりの舞台メニューが目立っています。家庭科での調理実習やカフェテリアでの啓蒙もあつてか、食にこだわることの重要性を深くとらえた取り組みが増えています。天然酵母で発酵させた生地を使って焼いたピザ、スープから作るラーメン、野菜の味を堪能できるピビンバ、国産牛・オーギービーフの安い部位を使つてうまく調理した牛丼もありました。

このほか、クラス委員会主催の「餅つき大会」や「七夕企画」では、日本人が長い歴史の中で大切にしてきた季節感、自然の感謝、そして収穫を喜び合う年中行事の意味を考えつきたての餅のおいしさや、七夕そうめんの涼やかさを味わうことができました。

### クラスランチの可能性

いま、月二回ペースで行われている中1クラスランチ。毎回、ラボの方から食に関するレクチャーを受けつつ、クラスメイトと昼食を共にする時間。でも、「食べながら話を聴くのはむずかしい」とか、「指定席で食べなければならぬのがちょっと窮屈。自由に座りたい」など、改善への要望も聴かれるようになりまし

た。食推委員会としては、このクラスランチ充実のため、今後はもっと生徒の声を企画に反映させていかねばと考えています。

### 応募生徒の自由な企画を応援

中高では「首都圏の中高生が考える『鹿児島県鹿屋市が抱える100の課題』チャレンジ事業」に8名の生徒が取り組み、昨年今年と2年連続で特別賞を受賞しました。この事業は、鹿屋市が抱える多くの課題のうちいくつかをとりあげ、その解決に向けて自分たちでできることを考え、実際に行動してみようというもの。生徒たちはNPO ラボと連携し、鹿屋特産の食材(カンパチ・サツマイモ・お茶)を使用したメニューを考案。実際にラボ特別メニューとして、ランチにも登場させました。

このように、中高では様々な食育実践を展開してきました。が、今後は、もっと生徒自身のアイデアをいかした企画をーと考えています。カフェのヘビーマスターと、これからのユーザーのみなさんどうぞよろしく!





# 生徒の協働がひろる、中高合唱コンクール

中高教員 清水直哉

## 合唱コンの持つパワーと魅力

1月24日に、中高合唱コンクールが行われました。今のクラスでの最後の行事ということもあり、どのクラスも熱心に練習に取り組み、本番では素晴らしい歌声を披露してくれました。

毎年「合唱コンが平穩に終わるクラス」というのはほとんどありません。合唱に対する互いの温度差から、最初はいまいきかきかたがあたり前。その中で、声をかけあつた練習方法を工夫したりして、少しずつクラスの気持ちや歌声がまとまり、本番では心一つに様々な想いを乗せた歌声を響かせる。合唱コンは、特別なパワーや魅力を持った行事だと感じています。

## 同じ目標に向かう中、信頼関係が育まれた中学実行委員会

合唱コンを支えているのが、生徒の実行委員会です。要綱作成や事前準備、当日の司会や誘導、審査員の先生方への対応など、彼らが中心となつて運営が行われています。今年も中高それぞれの実行委員会、みるみる成長していく生徒たちの姿を見るのができました。

中学生にとっては、はじめて自分たちが中心となつて進める行事。運営も慣れない点が多く、議論が深

まらず苦労した時期もありました。そのような状況でも、委員長から「良い合唱コンにしよう」という継続的な呼びかけがされ、同じ目標に向かつて会議や準備などで時間を共有する中で、委員同士の信頼関係が育まれていきました。時には意志の疎通がうまくいかず、委員同士がぶつかることもありましたが、お互いが逃げずに気持ちを伝え合い、最終的にはみんなで協力して良い行事にしようと思つたことができました。

## 「裏方」に徹してきた

### 高校実行委員会

「1年間の最後の行事。曲決めから練習、本番までのあらゆる活動を通して、『そのクラスにしか作れない、たった1つの物語』をつくってほしい。クラスが合唱に全力を注げるような環境をつくろう。」と、最初から最後まで裏方に徹した点が、今年の高校実行委員会の特徴でした。「クラス責任者会議を、実行委員からの二方的な伝達事項の場ではなく、クラスの様子や悩みを責任者同士で共有したり、実行委員へ様々な要望を出せる双方向的な場にしてみよう」とか、「特別練習の日程や場所も、クラスが納得できる形を模索しよう」など、主役となる各クラ

スの立場に立った運営が工夫されました。反省点ももちろんありましたが、テーマに込められた願いに立ち、粘り強く議論し、綿密に準備をし、与えられた役割をしっかりと果たすことができた実行委員たちに、心から拍手を送りたいと思います。

## 「すべての生徒」が、行事の成功を支えている

合唱コンの期間中、高2の生徒たちから「委員長、いっぱいがんばって頑張りなさい」とよく声をかけられました。普段委員長とそこまで接点があるわけではない生徒からも、「委員長が頑張ってるから、ちゃんと（合唱の）練習しないといけないって気になる。」という声を聞きました。はじめて務める大役に押しつぶされそうになる委員長を、実行委員や学年の仲間が励まし、その言葉に励まされた委員長の行動が、また学年の生徒を動かす。そんな目に見えない繋がりが、今年の合唱コンを成功に導いたように思います。

合唱コンが終わつた後の委員会で、委員長からは支えてくれた友人たちへの感謝の言葉が紡がれました。その委員長の言葉は、きっとまた誰かに勇気を与えたことでしょう。1人の「言葉」や「行動」が誰

かに影響を与え、その連鎖が素晴らしい行事をつくりあげていきました。実行委員はもちろん、全ての生徒の支えあいで、毎年の行事がつくられていることを、わたし自身も改めて学ばされました。

## 行事の経験を、社会に出た際

### いかしてほしい

高校2年生にとつて、最後の行事が終わりました。生徒会担当として彼らと関わる中で、「自分たちの力で、全ての学園生が輝ける行事をつくりたい」と願い、努力する高2生の姿を、この1年間目にしてきました。どの行事にも、目標実現のためにお互いの課題を率直に指摘し合つたり、それを受け止め、変わろうとする彼らの姿がありました。

行事を通して生徒たちは、「望む未来を実現するためには、考えが違ふ人たちも含めて、あらゆる人たちが協力し、周りに働きかける必要がある」ことを体験的に学んだと思います。人と人との繋がりが協働があつてこそ、わたしたちの望む社会や環境が実現されていくという考え方は、学園が掲げる「ESD」の根幹となる認識です。

生徒たちはこれから「生きづら」と形容される現代社会に飛び出し、長い人生を歩んでいくことになりそうです。将来彼らが何か実現したいことを見つけたとき、または大

きな壁にぶつかったとき、行事を通して学んだ「協力と協働」の力を思い起こし、その時身近にいる仲間と繋がりがあつて、乗り越えていってほしい。そう切に願っています。

## 両委員長の言葉

最後に、中高両委員長の言葉を紹介します。

### 中学委員長 児玉諒大くん

「不安でいっぱいだったけど、が「幹部以外の人の気持ちにそつた合唱コンに」という点を大事にできました。元々は知らない人が多かった実行委員の間に、行事を通して信頼関係が生まれていったことが嬉しかったです。」

### 高校委員長 岩井海人くん

「合唱コンが良かった」と感じる年は、合唱コンを通してクラスメイトをちゃんと理解できた年でした。特別な想いがある合唱コンを良いものにしたというモチベーションで頑張りました。それぞれの委員が自分の得意な分野で活躍してくれました。みんなに感謝しています。」



## 《学校法人から》

### 【理事会報告】

これまでに、次の理事会を開催いたしましたのでご報告いたします。

第6回定例理事会	9月24日
第2回常任理事会	10月22日
第7回定例理事会	10月24日
第3回臨時理事会	11月11日
第8回定例理事会	11月26日
第4回臨時理事会	12月9日
第9回定例理事会	12月24日
第5回臨時理事会	1月13日
第10回定例理事会	1月28日

### 【主要な議題・報告等】

- ・固定資産の除却(案)について
- ・中高生徒用駐輪ラックの更新について
- ・中高夏期講習・合宿講習手当の支払いについて
- ・平成28年度地域別最低賃金改定に伴う賃金の支払いについて
- ・カフェテリア業務委託に関する覚書に基づく支払資金の支払について
- ・特定非営利活動法人じぶん未来クラブへの仮払いについて

・2017(平成29)年度予算編成方針(案)について

・小学校西校舎雨漏対応工事について

・小学校西校舎空調更新工事について

・幼稚園空調新設工事について

・退職管理職の再任用について

・2016年度冬期賞与の支給について

・ウィルスバスター・Deep Securityのバージョンアップについて

・カフェテリアにおける食堂業務及び関連業務委託契約パートナー候補事業者の選定(候補事業者からのプレゼンテーション実施)

・2017年中学入試問題印刷費の支出について

・幼稚園庭庭照明工事について

・育児・介護休業法の改正に伴う就業規則と育児・介護休業等に関する規則の改正について

・中学校長の雇用継続について

・カフェテリアにおける食堂業務及び関連業務委託契約について

・2017年度の校地内管理業務(警備)委託業者の決定について

### 【評議員会報告】

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

第3回評議員会 9月24日

第4回評議員会 1月6日

第5回評議員会 1月28日

### 【主要な諮問事項等】

- ・固定資産の除却(案)について
- ・2016年2月の中学入試に関する報告
- ・カフェテリアの業者選定に係る理事会での審議の経緯について
- ・寄附行為第26条に基づく「理事長他2名の評議員解任について」

### 【事務局からのご連絡】

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

